

No. 333【2018年11月30日配信】
三内丸山遺跡からも出土した琥珀(担当:児玉)

こんにちは。文化財課の児玉です。オレンジ色に澄み渡る琥珀は、樹木の樹脂が土砂などに埋もれて化石化したもので、宝石の中でも植物に由来する珍しいものです。縄文時代の遺跡からは琥珀の装身具や塊などが出土することがあり、三内丸山遺跡からは塊や破片、近隣の三内丸山(6)遺跡からは琥珀玉が出土しています。

コハクの産地は、北海道や岩手県、福島県、千葉県などで、特に岩手県北部の久慈産琥珀は青森県観光物産館アスパムでも販売コーナーが設けられているように、全国的にも広く知られています。青森県内の遺跡で出土している琥珀の多くは、久慈産のものとみられています。

琥珀は、鉱物と違って樹脂の化石ですから、宝石の中でも最も比重が軽いため、海岸に打ち寄せられた状態で見つかることがあります。久慈周辺の海岸でも、運が良ければ見つかるようですが、サハリンでは簡単に琥珀を拾うことができます。

サハリンの琥珀は、樺太として日本が領有していた頃、宮沢賢治が大正12年(1923)8月に訪れた「栄浜村」、現在の「スタロドゥブスコエ」が産地です。サハリン州都のユジノサハリンスク(旧豊原)を56kmほど北上したオホーツク海に面する海岸で、ユジノサハリンスク駅から都市間バスでドリンスク(旧落合)まで約1時間、そこからタクシーで約15分のところにあります。

この海岸は、「琥珀海岸」とも呼ばれる砂浜で、波に打ち上げられた海藻が幾重にも層をなしています。私の場合、波打ち際の手草の束をひたすらひっくり返し、2時間ほどかけて約200粒の小さな琥珀を拾うことができました。

ちなみに、北海道では本州以南の弥生時代に相当する続縄文時代(紀元前3世紀頃～紀元後7世紀)の遺跡から、首飾りにしたとみられる平玉が大量に出土しており、それらはサハリン産琥珀と考えられています。

さて、琥珀が出土した三内丸山遺跡ですが、縄文時遊館の体験工房では再生琥珀のペンダント作りを楽しむことができます(有料)。また、これまで整備が進められてきた新しい展示収蔵施設が来年4月の有料化を前に、11月22日から一般公開されています。2月24日までは観覧無料なので、この機会に訪れてみてはいかがでしょうか。



サハリンのスタロドゥブスコエ海岸



スタロドゥブスコエ海岸の琥珀